

令和4年度

掛川市・袋井市病院企業団
病院事業会計決算審査意見書

掛川市・袋井市病院企業団監査委員

掛袋病企監第5号
令和5年6月30日

掛川市・袋井市病院企業団
企業長 宮地正彦様

掛川市・袋井市病院企業団

監査委員 山下一夫

監査委員 久永豊彦

令和4年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計
決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和4年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算及び附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。

目 次

第1	審査の対象	-----	1
第2	審査の期間	-----	1
第3	審査の方法	-----	1
第4	審査の結果及び意見	-----	1
	1 審査の結果	-----	1
	2 審査の意見	-----	2
第5	決算の概要	-----	3
	1 業務の執行状況	-----	3
	2 予算の執行状況	-----	6
	3 経営成績の状況	-----	9
	4 財政の状態	-----	16
	5 未処分利益剰余金の処理	-----	17
第6	キャッシュ・フロー計算書	-----	18
第7	参考資料（附表1～3）	-----	20

注 記

- 1 金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満は百円単位を四捨五入したため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2 比率（％）は、原則として小数点以下第2位を四捨五入したため、構成比の合計と内訳の計が一致しない場合又は決算書その他の書類と一致しない場合がある。なお、99.95%～99.99%の場合は、99.9%と表示した。
- 3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - (1) マイナスは「△」と表示した。
 - (2) 該当数値のないものは「－」と表示した。
 - (3) 該当数値はあるが、単位未満のものは「0.0」と表示した。

令和4年度掛川市・袋井市病院企業団 病院事業会計決算審査意見

第1 審査の対象

令和4年度 掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算

第2 審査の期間

令和5年5月23日から同年6月30日まで

第3 審査の方法

掛川市・袋井市病院企業団企業長から審査に付された決算書及び附属書類について、財務会計上の合計上の合規性の検証に加え、事務事業が経済的かつ効率的に執行されているか等に主眼を置き、通常実施すべき審査手続を実施した。

また、計数の確認、関係諸帳簿との照合等を行うとともに、関係職員の説明を聴取した。

第4 審査の結果及び意見

1 審査の結果

審査に付された当年度の決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、関係諸帳簿及び証拠書類といずれも符合し、適正であると認められた。

(1) 業務実績

1日平均入院患者数は、前年度比10.3人（2.7%）増の387.1人となり、病床利用率は、前年度比2.0ポイント増の77.4%となった。また、1日平均外来患者数は、前年度比23.1人（2.0%）増の1,153.9人となった。

患者1人当たりの診療単価は、入院が前年度比825円減の7万2,915円、外来が前年度比149円減の1万7,429円となった。減少要因は、新型コロナウイルス感染症の大規模な院内感染の発生による入院患者の受入れ制限、レセプトの請求保留の増加等である。また、医師1人当たりの診療単価は、前年度比1万9,094円減の44万2,164円となった。

(2) 経営成績

医業収益は、入院患者数と外来患者数がともに増加したものの、レセプトの請求保留の増加等により、ほぼ前年度並みの162億9,893万7千円となった。

一方、医業費用は、光熱水費の単価引上げや薬品費の増加等により、前年度比8億9,304万6千円（5.2%）増の181億9,141万2千円となった。その結果、医業損益は、18億9,247万5千円の損失となった。

経常損益は、収益202億4,335万4千円に対し、費用は191億6,376万1千円となり、経常利益は10億7,959万3千円となった。これに特別利益1,072万1千円を加え、火災による損失、固定資産売却損等による特別損失2,564万6千円を差し引いた当年度純利益は、10億6,466万8千円となり当年度未処分利益剰余金は、50億142万9千円となった。なお、経常利益が生じた主な要因は、新型コロナウイルス感染症関連の補助金24億3,192万9千円である。

(3) 財政状態

本年度末の資産合計は、前年度比7億5,367万円(3.0%)増の259億8,081万7千円となった。これは、主に新型コロナウイルス感染症関連の補助金による現金預金の増加によるものである。負債合計は、前年度比3億3,556万7千円(1.7%)減の195億3,100万9千円となった。うち企業債は、前年度比8億2,324万1千円の減で、未償還残高は139億7,973万8千円となった。資本合計は、繰越利益剰余金の増等により、前年度比10億8,923万7千円増の64億4,980万7千円となった。

2 審査の意見

令和4年度は、前年度に引き続き新型コロナ感染症対策と通常診療確保の両立が求められる1年であった。新型コロナ感染症が業務実績に及ぼした影響は甚大で、1日当たりの平均患者数は、入院が387.1人、外来が1,153.9人で、いずれも前年度を上回ったものの、なおコロナ禍前の水準には達していない。さらに、7月下旬から8月上旬までにわたり、新型コロナ感染症の大規模な院内感染が発生し、7月29日から8月15日までの間、入院患者の受入れ制限を余儀なくされた。このような危機的状況の中で、診療制限を最小限にとどめ、医療体制を維持することができたのは、約3年間に及ぶ経験や知見を生かして24時間体制で対応に当たった企業長以下、職員全員の懸命な努力によるものであり、高く評価したい。

本年度の決算状況は、医業収益がほぼ前年度並みであったのに対し、医業費用は前年度から約5.2%増加し、医業損失は、前年度比6億1,113万4千円増の18億9,247万5千円となった。また、経常損益と純損益は、ともに黒字であったが、これらは新型コロナ関連補助金の交付によるものであり、これを除いた実質的損益は、いずれも赤字で、純損益は、平成30年度以降、最も大きな13億6,726万円の赤字となった。

なお、この3年間、病院経営を圧迫してきた新型コロナ感染症は、年明けを機に終息に向かいつつある。また5月には、感染症レベルの5類引下げにより新たな局面を迎え、患者数は徐々に回復していくものと思われる。ただし、コロナ禍前の水準に回復するまでには、相当な時間を要するものと思われることから、より一層の経営の効率化と経費節減により医業収益の増加に努め、持続的かつ健全な病院経営に尽力されたい。

最後に、中東遠総合医療センターは、令和5年5月に開院10年の節目を迎える。また、令和5年4月には、地域がん診療連携拠点病院の指定も受ける。今後は、3月に策定した経営強化プランに基づき、医療体制の充実、施設や設備の機能強化、さらなる経営の効率化、職員の働き方改革等を推進し、より質の高い医療サービスの提供を実現させ、中東遠地域における基幹病院としての使命を果たされることを切に願うものである。

第5 決算の概要

1 業務の執行状況（第2条関係）

(1) 病床の利用状況

区 分	令和4年度	令和3年度	比較増減	令和3年度県平均
病 床 数 (床)	500	500	0	325
病 床 利 用 率 (%)	77.4	75.4	2.0	76.8
平均在院日数 (日)	9.4	9.1	0.3	15.1

(注)

- 1 病床数は500床、病床利用率は77.4%で、前年度から2.0ポイント増加した。増加要因は、手術件数や医師の増加等による。
- 2 平均在院日数は9.4日で前年度から0.3ポイント増加した。増加要因は、新型コロナの院内感染の発生による入院の長期化等による。

(2) 患者数の状況

(単位：人、%)

区 分	令和4年度			令和3年度	増 減	
	当初予定数	補正後	実績 ①	実績 ②	①-②	伸び率
延べ入院患者数 (診療実日数)	146,000 (365日)	138,700 (365日)	141,307 (365日)	137,550 (365日)	3,757 (0日)	2.7
延べ外来患者数 (診療実日数)	279,450 (243日)	279,450 (243日)	280,394 (243日)	273,650 (242日)	6,744 (1日)	2.5
一日平均入院患者数	400.0	380.0	387.1	376.8	10.3	2.7
一日平均外来患者数	1,150.0	1,150.0	1,153.9	1,130.8	23.1	2.0

(注)

- 1 延べ入院患者数は、前年度から3,757人増の141,307人となった。増加要因は、手術件数や医師の増加等による。
- 2 延べ外来患者数は、前年度から6,744人増の280,394人となった。増加要因は、紹介患者の積極的な受入れ、医師の増加等による。
- 3 患者数の多い診療科は、入院では、整形外科21,243人、循環器内科18,314人、内科15,871人、外来では、内科46,500人、整形外科20,380人、眼科20,003人であった。
- 4 患者数が増加した主な診療科は、入院では、整形外科、内科及び外科で、外来では、内科、リハビリテーション科及び消化器内科であった。増加要因は、医師の増加等による。

(参考資料)

地域別延べ患者数 (入院・外来)

入 院

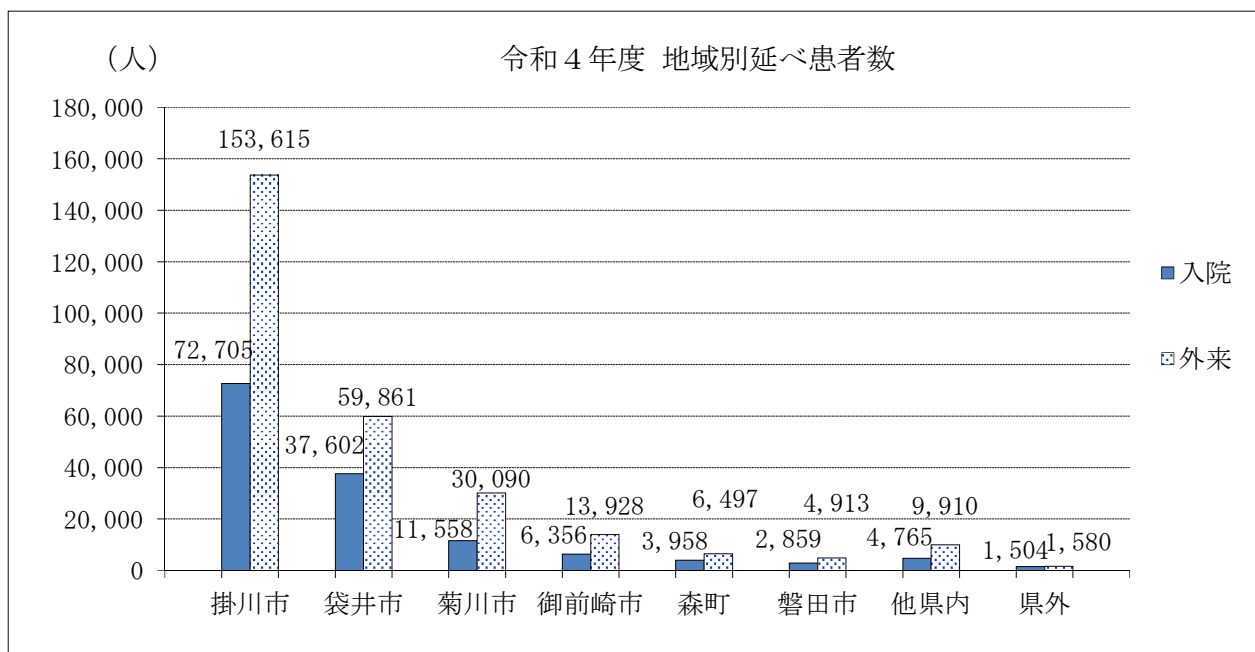
(単位：人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和4年度	72,705	37,602	11,558	6,356	3,958	2,859	4,765	1,504	141,307
令和3年度	71,700	34,756	12,367	7,009	3,772	2,105	4,372	1,469	137,550
増 減	1,005	2,846	△ 809	△ 653	186	754	393	35	3,757
伸び率	1.4	8.2	△ 6.5	△ 9.3	4.9	35.8	9.0	2.4	2.7

外 来

(単位：人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和4年度	153,615	59,861	30,090	13,928	6,497	4,913	9,910	1,580	280,394
令和3年度	151,067	59,126	28,532	13,168	5,950	4,870	9,501	1,436	273,650
増 減	2,548	735	1,558	760	547	43	409	144	6,744
伸び率	1.7	1.2	5.5	5.8	9.2	0.9	4.3	10.0	2.5



(3) 建設改良の執行状況（消費税含む）

ア 施設改良費	予算額	1 億8,942万 2 千円
	決算額	4,135万 9 千円

〔主な施設改良費〕

・職員駐車場整備工事	1,934万 8 千円
------------	-------------

イ 資産購入費	予算額	6 億6,139万 7 千円
	決算額	6 億259万円

〔主な有形固定資産〕

器械備品

・FPDシステム	5,498万 7 千円
・麻酔システム（5台）	5,076万 5 千円
・多項目自動血球分析装置	4,724万 5 千円
・超音波画像診断装置（心エコー）	2,662万円
・一般X線撮影装置（2台）	2,144万 5 千円
・デジタルX線TVシステム	1,980万円

2 予算の執行状況（消費税含む）

(1) 収益的収入及び支出（第3条関係）

ア 収益的収入の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	増 減 額
	当 初	現 額			
第1款 病院事業収益	18,701,944	19,530,070	20,330,424	104.1	800,354
第1項 医業収益	17,154,288	16,468,088	16,368,836	99.4	△99,252
第1目 入院収益	10,950,000	10,263,800	10,303,682	100.4	39,882
第2目 外来収益	5,030,100	5,030,100	4,890,150	97.2	△139,950
第3目 その他医業収益	884,252	884,252	796,182	90.0	△88,070
第4目 他会計負担金	289,936	289,936	378,822	130.7	88,886
第2項 医業外収益	1,547,655	3,061,981	3,950,845	129.0	888,864
第3項 特別利益	1	1	10,743	-	10,742

(注)

- 1 病院事業収益は、予算現額195億3,007万円に対し、決算額は8億35万4千円増の203億3,042万4千円で、執行率は、104.1%となった。
- 2 医業収益は、予算現額164億6,808万8千円に対し、入院収益が3,988万2千円の増、外来収益が1億3,995万円の減、他会計負担金が8,888万6千円の増で、総額で9,925万2千円の減となった。
- 3 医業外収益は、予算現額30億6,198万1千円に対し、決算額は、8億8,886万4千円増の39億5,084万5千円であった。増加要因は、下半期の空床補償補助金の増によるものである。
- 4 特別利益の主なものは、過年度分診療報酬の修正額、固定資産売却益等である。なお、決算額が予算現額から著しく増加したため、執行率を「-」と表示した。

イ 収益的支出の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	不 用 額
	当 初	現 額			
第1款 病院事業費用	18,966,663	19,513,554	19,247,295	98.6	266,259
第1項 医業費用	18,169,461	18,698,056	18,452,444	98.7	245,612
第2項 医業外費用	774,297	777,797	769,206	98.9	8,591
第3項 特別損失	17,905	32,701	25,646	78.4	7,055
第4項 予備費	5,000	5,000	0	0	5,000

(注)

- 1 病院事業費用は、予算現額195億1,355万4千円に対し、決算額は、192億4,729万5千円で、2億6,625万9千円の不用額が生じ、執行率は、98.6%となった。
- 2 特別損失の主なものは、火災による損失、固定資産売却損等である。
- 3 不用額の主なものは、次のとおりである。

(医業費用)

- ・材料費 1億2,580万4千円
- ・経費 9,725万8千円

(医業外費用)

- ・院内保育園運営費 398万円

(2) 資本的収入及び支出 (第4条関係)

ア 資本的収入の執行状況

(単位：千円、%)

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	増 減 額
	当 初	現 額			
第1款 資本的収入	942,005	1,276,128	1,091,741	85.6	△184,387
第1項 企業債	250,000	235,500	222,200	94.4	△13,300
第2項 負担金	682,360	682,360	664,534	97.4	△17,826
第3項 補助金	1	209,332	179,747	85.9	△29,585
第4項 貸付資金返還金	9,642	25,074	25,224	100.6	150
第5項 寄附金	1	1	0	0	△1
第6項 固定資産売却代金	1	1	36	3,575.0	35
第7項 保険金	0	123,860	0	0	△123,860

(注)

- 1 資本的収入は、予算現額12億7,612万8千円に対し、決算額は1億8,438万7千円減の10億9,174万1千円で、執行率は、85.6%となった。
- 2 企業債は、予算現額2億3,550万円に対し、決算額は、1,330万円減の2億2,220万円であった。
- 3 負担金は、予算現額6億8,236万円に対し、決算額は、1,782万6千円減の6億6,453万4千円であった。

イ 資本的支出の執行状況

(単位：千円、%)

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	翌年度繰越額	不 用 額
	当 初	現 額				
第1款 資本的支出	1,577,416	1,897,231	1,690,050	89.1	123,860	83,321
第1項 建設改良費	527,434	850,819	643,949	75.7	123,860	83,010
第2項 企業債償還金	1,045,662	1,045,662	1,045,441	99.9	0	221
第3項 投資	4,320	750	660	88.0	0	90

(注)

- 1 資本的支出は、予算現額18億9,723万1千円に対し、決算額は、16億9,005万円で、8,332万1千円の不用額が生じ、執行率は、89.1%となった。
- 2 建設改良費のうち、施設改良費は職員駐車場整備工事で、資産購入費の主なものはF P Dシステム、麻酔システム等であった。翌年度に繰り越した1億2,386万円は、施設管理室等の火災復旧工事である。
- 3 投資の支出内容は、看護学生修学資金貸付金である。

ウ 資本収支状況

資本的収入が資本的支出に不足する額5億9,831万円は、次の資金で補填されている。

- ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 255万6千円
- ・過年度分損益勘定留保資金 5億9,575万4千円

(3) 企業債の発行と償還状況（第6条関係）

（単位：千円、％）

区 分	前年度末残高	本年度借入額	本年度借入利率	本年度償還額	本年度末残高
企 業 債	14,802,980	222,200	政府資金 0.200 市中銀行 0.110	1,045,441	13,979,738

（注）本年度は、2億2,220万円を借り入れ、10億4,544万1千円を償還し、未償還残高は139億7,973万8千円となった。借入限度額は、医療機器等整備事業2億3,550万円、借入利率は、年5.0%以内と定められており、いずれも範囲内であった。

(4) 一時借入金（第7条関係）

一時借入金の限度額は15億円であるが、本年度は一時借入金は発生していない。

(5) 議会の議決を要する経費の流用（第9条関係）

職員給与費及び交際費は、議会の議決を経なければ流用することのできない経費であるが、本年度の流用はなかった。

(6) たな卸資産（第10条関係）

たな卸資産の購入限度額は45億8,616万6千円であるが、購入額は44億9,606万9千円であり、限度額の範囲内であった。

（内訳）

- ・薬品 25億2,116万7千円
- ・診療材料 19億7,490万1千円

3 経営成績の状況（消費税除く）

(1) 経営収支の状況

（単位：千円、％）

区 分		令和4年度		令和3年度		増減額	伸び率	
		金額	構成比	金額	構成比			
経常 収 支	経 常 収 益	医業収益 (1)	16,298,937	80.5	16,017,025	71.1	281,912	1.8
		入院収益	10,303,406	50.9	10,142,937	45.0	160,469	1.6
		外来収益	4,887,051	24.1	4,810,099	21.4	76,952	1.6
		その他医業収益	729,658	3.6	732,536	3.3	△2,878	△ 0.4
		他会計負担金 (a)	378,822	1.9	331,453	1.5	47,369	14.3
	医 業 外 収 益	医業外収益 (2)	3,944,417	19.5	6,502,468	28.9	△2,558,051	△ 39.3
		補助金	2,491,131	12.3	4,988,655	22.2	△2,497,524	△ 50.1
		負担金交付金	682,754	3.4	708,226	3.1	△25,472	△ 3.6
		長期前受金戻入	394,832	2.0	364,220	1.6	30,612	8.4
	計 (A)		20,243,354	100.0	22,519,492	100.0	△2,276,138	△ 10.1
	経 常 費 用	医業費用 (3)	18,191,412	94.9	17,298,366	94.9	893,046	5.2
		給与費	10,089,583	52.6	9,615,040	52.7	474,543	4.9
		材料費	4,195,971	21.9	4,005,639	22.0	190,332	4.8
		経費	2,562,668	13.4	2,370,752	13.0	191,916	8.1
減価償却費		1,246,403	6.5	1,241,329	6.8	5,074	0.4	
医業外費用 (4)		972,349	5.1	935,166	5.1	37,183	4.0	
支払利息及び 企業債取扱諸費		206,615	1.1	215,124	1.2	△8,509	△ 4.0	
雑損失		653,498	3.4	619,581	3.4	33,917	5.5	
計 (B)		19,163,761	100.0	18,233,532	100.0	930,229	5.1	
特別 収 支	特別利益 (5)	10,721	0.1	21,703	0.1	△10,981	△ 50.6	
	特別損失 (6)	25,646	0.1	8,665	0.0	16,981	196.0	
医業損益 (1) - (3) = (C)		△1,892,475	-	△1,281,342	-	△611,134	-	
修正医業損益{(1) - (a)} - (3)		△2,271,297	-	△1,612,795	-	△658,503	-	
経常損益 (A) - (B) = (D)		1,079,593	-	4,285,960	-	△3,206,368	-	
当年度純損益 (D) + (5) - (6) = (E)		1,064,668	-	4,298,998	-	△3,234,330	-	
前年度繰越利益剰余金 (F)		3,936,761	-	△362,237	-	4,298,998	-	
当年度未処分利益剰余金 (E) + (F)		5,001,429	-	3,936,761	-	1,064,668	-	
総収支比率 (A)+(5) / (B)+(6)		105.5		123.6		△ 18.0		
医業収支比率 (1)/(3)		89.6		92.6		△ 3.0		
修正医業収支比率 {(1)-(a)}/(3)		87.5		90.7		△ 3.2		

(注)

- 1 医業収益は、患者数が増加したものの、レセプトの請求保留等により、ほぼ前年度並みとなった。医業費用は、給与費及び材料費の増等により増加した。
- 2 医業損益は、前年度比6億1,113万4千円減の18億9,247万5千円の損失となった。
- 3 経常損益は、前年度比32億636万8千円減の10億7,959万3千円となった。主な減少要因は、新型コロナウイルス感染症関連補助金の減少による。
- 4 経常損益に特別利益を加え、特別損失を差し引いた当年度純利益は、10億6,466万8千円となった。
- 5 当年度純利益に前年度繰越利益剰余金を加えた当年度未処分利益剰余金は、50億142万9千円となった。
- 6 医療業務活動の効率効果を測定する医業収支比率は、前年度比3.0ポイント減の89.6%となった。
- 7 医業収支比率から他会計負担金を除いた修正医業収支比率は、前年度比3.2ポイント減の87.5%となった。

(参考資料)

経常収支と繰入金決算額の推移

(単位：千円、%)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度 比較増減
経常収益	16,894,562	16,700,332	18,611,201	22,519,492	20,243,354	△ 2,276,138
うち医業収益①	15,325,054	15,352,792	14,584,258	16,017,025	16,298,937	281,912
経常費用	16,795,536	17,114,757	17,378,088	18,233,532	19,163,761	930,229
うち医業費用②	16,014,192	16,250,271	16,491,106	17,298,366	18,191,412	893,046
医業損益 ①－②	△ 689,138	△ 897,479	△ 1,906,848	△ 1,281,342	△ 1,892,475	△ 611,134
経常損益	99,026	△ 414,425	1,233,113	4,285,960	1,079,593	△ 3,206,368

両市からの繰入金(3条)	1,214,271	1,007,589	1,029,620	1,039,679	1,061,576	21,897
繰入金を除く経常損益	△ 1,115,245	△ 1,422,014	203,493	3,246,281	18,017	△ 3,228,264
繰入金/経常収益(%)	7.2	6.0	5.5	4.6	5.2	0.6

両市からの繰入金決算額の推移

(単位：千円)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度 比較増減	
両市からの繰入金	1,726,110	1,726,110	1,726,110	1,726,110	1,726,110	0	
内	収益的収入 (3条)	1,214,271	1,007,589	1,029,620	1,039,679	1,061,576	21,897
	掛川市	717,276	591,033	604,447	610,521	622,450	11,929
	袋井市	496,995	416,556	425,173	429,158	439,126	9,968
訳	資本的収入 (4条)	511,839	718,521	696,490	686,431	664,534	△ 21,897
	掛川市	307,174	430,791	417,115	410,630	397,155	△ 13,475
	袋井市	204,665	287,730	279,375	275,801	267,379	△ 8,422

(注) 次の経費は、地方公営企業法等により地方公共団体が負担することができることとされている。

- ・その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費

(例) 救急医療の確保、保健衛生行政事務に要する経費 など

- ・病院事業の性質上、能率的な経営を行っても、なおその経営に伴う収入のみをもって充てることが、客観的に困難であると認められる経費

(例) 病院の建設改良に要する経費、高度医療の経費 など

(2) 医業収益の状況

ア 患者の1人・1日当たりの診療収入（診療単価）

入院

算式		令和4年度		令和3年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	10,303,406	72,915 円	10,142,937	73,740 円	△ 825 円
	年延入院患者数(人)	141,307		137,550		

外来

算式		令和4年度		令和3年度		比較増減
外来	外来収益(千円)	4,887,051	17,429 円	4,810,099	17,578 円	△ 149 円
	年延外来患者数(人)	280,394		273,650		

(注) 診療単価は、入院が前年度比825円の減、外来が前年度比149円の減となった。

イ 医師及び看護師の1人・1日当たりの診療収入（診療単価）

医師

算式		令和4年度		令和3年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	10,303,406	258,205 円	10,142,937	268,908 円	△ 10,703 円
	年延医師数(人)	39,904		37,719		
外来	外来収益(千円)	4,887,051	183,959 円	4,810,099	192,350 円	△ 8,391 円
	年延医師数(人)	26,566		25,007		
入院+外来		442,164 円		461,258 円		△ 19,094 円

(注) 入院、外来を合計した医師1人当たりの診療単価は、前年度比1万9,094円の減となった。

看護師

算式		令和4年度		令和3年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	10,303,406	51,755 円	10,142,937	51,443 円	312 円
	年延看護師数(人)	199,079		197,168		
外来	外来収益(千円)	4,887,051	36,875 円	4,810,099	36,797 円	78 円
	年延看護師数(人)	132,531		130,720		
入院+外来		88,630 円		88,240 円		390 円

(注) 入院、外来を合計した看護師1人当たりの診療単価は、前年度比390円の増となった。

ウ 職員1人当たりの医業収益（年間）

算式	令和4年度		令和3年度		比較増減
医業収益（千円）	16,298,937	17,564千円	16,017,025	17,836千円	△273千円
損益勘定職員数（人）	928		898		

（注）

- 職員数には、特別職である企業長を含む。
- 職員1人当たりの医業収益は、前年度比27万3千円の減となった。

エ 入院外来収益内訳表

（単位：千円、％）

区 分	令和4年度		令和3年度		増減額	伸び率	
	金額	構成比	金額	構成比			
入 院	入院料	4,759,396	46.2	4,680,689	46.1	78,707	1.7
	処置・手術	2,954,508	28.7	3,022,657	29.8	△68,149	△2.3
	検査	610,288	5.9	565,711	5.6	44,577	7.9
	注射	369,574	3.6	314,159	3.1	55,414	17.6
	放射線	255,976	2.5	259,801	2.6	△3,826	△1.5
	給食	221,294	2.1	216,150	2.1	5,144	2.4
	投薬	107,163	1.0	116,259	1.1	△9,096	△7.8
	その他	1,025,207	10.0	967,511	9.5	57,696	6.0
	計	10,303,406	100.0	10,142,937	100.0	160,469	1.6
外 来	注射	1,431,823	29.3	1,363,311	28.3	68,512	5.0
	検査	1,029,294	21.1	1,013,955	21.1	15,339	1.5
	放射線	741,132	15.2	749,757	15.6	△8,625	△1.2
	処置・手術	555,777	11.4	579,888	12.1	△24,111	△4.2
	再診料	151,201	3.1	160,647	3.3	△9,447	△5.9
	投薬	88,940	1.8	77,135	1.6	11,805	15.3
	初診料	84,289	1.7	93,054	1.9	△8,766	△9.4
	その他	804,595	16.5	772,352	16.1	32,244	4.2
	計	4,887,051	100.0	4,810,099	100.0	76,952	1.6
入院・外来計	15,190,457	-	14,953,036	-	237,421	1.6	

（注）

- 入院収益は、患者数の増加や高額薬剤の使用等による増加があったが、レセプトの請求保留が増加したことから、前年度比1億6,046万9千円（1.6％）の増にとどまった。
- 外来収益は、紹介患者の積極的な受入れ等により、前年度比7,695万2千円（1.6％）の増となった。

オ その他医業収益の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度	令和3年度	増減額	伸び率
医療相談収益	432,768	414,655	18,113	4.4
公衆衛生活動収益	176,628	183,540	△ 6,912	△ 3.8
室料差額収益	36,577	54,791	△ 18,214	△ 33.2
受託検査施設利用収益	1,793	1,549	244	15.7
その他医業収益	81,892	78,001	3,891	5.0
合 計	729,658	732,536	△ 2,878	△ 0.4

(注) その他医業収益の主なものは、次のとおりである。

・医療相談収益	
・人間ドック（日帰り 12,427件、1泊 16件）	4億800万7千円
・PETがん検診（166件）	970万7千円
・脳ドック（277件）	830万1千円
・公衆衛生活動収益	
・一般健康診断	4,920万1千円
・予防接種	3,303万7千円
・妊産婦健診	3,079万7千円
・その他医業収益	
・文書料	3,892万1千円
・新生児介補料	1,111万円
・病衣使用料	901万5千円

(3) 医業費用の状況

ア 給与費の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度	令和3年度	増減額	伸び率
医業収益 ①	16,298,937	16,017,025	281,912	1.8
医業費用 ②	18,191,412	17,298,366	893,046	5.2
給与費 ③	10,089,583	9,615,040	474,543	4.9
うち退職給付引当金	672,143	779,144	△ 107,001	△ 13.7
対医業収益比 (③÷①)	61.9	60.0	-	-
対医業費用比 (③÷②)	55.5	55.6	-	-

(注)

- 1 対医業収益比は、前年度から1.9ポイント上がり、61.9%となった。
- 2 給与費が前年度から4.9%増加した要因は、職員の人員増や新型コロナウイルス感染症患者に対応した職員に対する特殊勤務手当の増加等による。

(7) 職員数の状況 (各年度3月31日現在)

(単位：人)

	医師	医療 技術員	看護師	事務部門	技能労務 部門	計	会計年度 任用職員	合計
令和4年度	110	182	545	65	26	928	280	1,208
令和3年度	101	176	531	64	26	898	257	1,155
増 減	9	6	14	1	0	30	23	53

(注) 職員数は、医師9人、医療技術員6人、看護師14人、事務職員1人、会計年度任用職員23人が増員となり、全体では53人の増員となった。

(イ) 医師の推移 (年間平均在職者数)

(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較 増減
医師年間平均在職者数	96.8	98.7	101.2	103.3	109.3	6.0

(注) 医師の年間平均在職者数は、前年度から6.0人増加し、109.3人となった。

イ 材料費の状況

(単位：千円、%)

	令和4年度		令和3年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
材料費	4,195,971	100.0	4,005,639	100.0	190,332
薬品費	2,353,729	56.1	2,181,237	54.5	172,492
診療材料費	1,795,955	42.8	1,777,052	44.4	18,902
医療消耗備品費	40,582	1.0	40,514	1.0	68
給食材料費	5,705	0.1	6,835	0.2	△1,130

(注) 材料費は、前年度比1億9,033万2千円増の41億9,597万1千円となった。主な増加要因は、高額な薬剤を使用する患者の増加による薬品費の増である。

ウ 経費の状況

(単位：千円、%)

	令和4年度		令和3年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
経費	2,562,668	100.0	2,370,752	100.0	191,916
委託料	1,470,426	57.4	1,419,995	59.9	50,431
賃借料	332,202	13.0	314,133	13.3	18,069
光熱水費	275,827	10.8	197,433	8.3	78,394
負担金	101,707	4.0	112,422	4.7	△10,715
その他	382,506	14.9	326,769	13.8	55,737

(注)

- 1 経費は、前年度比1億9,191万6千円増の25億6,266万8千円となった。増加要因は、PCR検査の外部発注に伴う委託料の増、物価高騰に伴う光熱水費の単価増等である。
- 2 主な委託業務は、次のとおりである。
 - ・ 医療機器保守業務 3億1,055万9千円
 - ・ 医事業務 2億7,679万5千円
 - ・ 給食業務 2億73万7千円
 - ・ 施設設備保守業務 1億9,556万1千円

4 財政の状態

(単位：千円、%)

区 分		令和4年度		令和3年度		増減額	伸び率
		金額	構成比	金額	構成比		
資 産	固定資産	13,217,754	50.9	13,971,027	55.4	△753,273	△ 5.4
	流動資産	12,763,063	49.1	11,256,120	44.6	1,506,943	13.4
資産合計		25,980,817	100.0	25,227,147	100.0	753,670	3.0
負 債	固定負債	15,547,887	59.8	15,964,086	63.3	△416,199	△ 2.6
	流動負債	2,960,997	11.4	3,024,748	12.0	△63,752	△ 2.1
	繰延収益	1,022,126	3.9	877,742	3.5	144,383	16.4
	計	19,531,009	75.2	19,866,577	78.8	△335,567	△ 1.7
資 本	資本金	1,302,075	5.0	1,302,075	5.2	0	0
	剰余金	5,147,733	19.8	4,058,496	16.1	1,089,237	26.8
	資本剰余金	146,304	0.6	121,735	0.5	24,569	20.2
	利益剰余金	5,001,429	19.3	3,936,761	15.6	1,064,668	27.0
	計	6,449,807	24.8	5,360,570	21.2	1,089,237	20.3
負債資本合計		25,980,817	100.0	25,227,147	100.0	753,670	3.0

(1) 資産の状態

資産合計は、前年度比7億5,367万円増の259億8,081万7千円となった。

【主な増減項目】

- ・ 固定資産（減価償却の実施による）

建物 89億542万1千円 (5億3,509万8千円減)

- ・ 無形固定資産

ソフトウェア 3億9,591万6千円 (1億5,330万5千円減)

- ・ 流動資産

現金預金 93億5,140万円 (13億7,290万7千円増)

未収金 30億6,893万円 (1億831万8千円増)

貯蔵品回転率

(単位：円、回)

算 式	令和4年度		令和3年度		比 較
$\frac{\text{期首貯蔵} + \text{当年度購入} - \text{期末貯蔵}}{(\text{期首貯蔵} + \text{期末貯蔵}) \div 2}$	4,206,601,740	14.7	4,013,860,258	15.0	△ 0.3
	285,560,516		266,785,814		

(注) 貯蔵品回転率は、前年度比0.3回減の14.7回となった。

(2) 負債の状態

負債合計は、前年度比3億3,556万7千円減の195億3,100万9千円となった。

【主な増減項目】

・固定負債

企業債	129億8,189万円	(7億7,564万8千円減)
引当金	25億6,599万7千円	(3億5,945万円増)

・流動負債

未払金	14億5,583万3千円	(9,493万3千円減)
-----	--------------	--------------

(3) 資本の状態

資本金は、前年度と同額の13億207万5千円となった。

資本剰余金は、前年度比2,456万9千円増の1億4,630万4千円となった。

利益剰余金は、前年度繰越利益剰余金39億3,676万1千円に当年度純利益10億6,466万8千円を加え、50億142万9千円となった。

資本金と剰余金を合わせた資本合計は、前年度比10億8,923万7千円増の64億4,980万7千円となった。

5 未処分利益剰余金の処理

当年度未処分利益剰余金50億142万9千円については、全額を繰越利益剰余金として次年度に繰り越した。

第6 キャッシュ・フロー計算書

1 業務活動によるキャッシュ・フロー

(単位：千円)

項目	令和4年度	令和3年度	増減
1 当年度純損益	1,064,668	4,298,998	△ 3,234,330
2 減価償却費	1,246,403	1,241,329	5,074
3 固定資産除却費	19,863	2,034	17,829
4 火災による損失	14,796	0	14,796
5 固定資産売却損	141	92	49
6 固定資産売却益	△ 238	△ 1,366	1,128
7 非資金性過年度損益修正損	0	2,250	△ 2,250
8 長期貸付金貸倒引当金の増減額	15,270	9,890	5,380
9 長期前払消費税勘定償却	19,422	17,999	1,423
10 長期前受金戻入額	△ 399,921	△ 369,119	△ 30,803
11 資本費繰入収益	△ 278,582	△ 332,293	53,711
12 受取利息及び受取配当金	△ 87	△ 36	△ 51
13 支払利息	206,615	215,124	△ 8,509
14 未収金の増減額	△ 84,171	253,031	△ 337,203
15 たな卸資産の増減額	△ 26,530	△ 11,020	△ 15,510
16 前払費用の増減額	1,081	0	1,081
17 前払金の増減額	△ 270	△ 11,167	10,897
18 退職給付引当金の増減額	359,450	427,919	△ 68,469
19 賞与引当金の増減額	61,286	△ 43,897	105,182
20 法定福利費引当金の増減額	17,489	△ 15,243	32,732
21 未収金貸倒引当金の増減額	△ 5,585	△ 15,343	9,758
22 未払金の増減額	6,901	△ 88,855	95,756
小計	2,238,000	5,580,327	△ 3,342,327
1 利息及び配当金の受取額	87	36	51
2 利息の支払額	△ 206,615	△ 215,124	8,509
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,031,472	5,365,239	△ 3,333,767

2 投資活動によるキャッシュ・フロー

1 有形固定資産の取得による支出	△ 626,624	△ 352,691	△ 273,934
2 有形固定資産の売却による収入	274	1,856	△ 1,582
3 無形固定資産の取得による支出	△ 1,909	△ 12,462	10,553
4 補助金等による収入	161,186	400,858	△ 239,672
5 繰入金による収入（他会計負担金）	639,965	662,227	△ 22,262
6 長期貸付金の貸付による支出	△ 660	△ 1,350	690
7 長期貸付金の返還による収入	25,224	9,958	15,266
投資活動によるキャッシュ・フロー	197,456	708,396	△ 510,940

3 財務活動によるキャッシュ・フロー

1 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	222,200	84,600	137,600
2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 1,045,441	△ 1,119,851	74,410
3 長期未払金の返済による支出	△ 57,349	△ 57,349	0
4 繰入金による収入（他会計負担金）	24,569	24,204	365
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 856,021	△ 1,068,396	212,375

資金増減額	1,372,907	5,005,239	△ 3,632,332
-------	-----------	-----------	-------------

資金期首残高	7,978,493	2,973,254	5,005,239
--------	-----------	-----------	-----------

資金期末残高	9,351,400	7,978,493	1,372,907
--------	-----------	-----------	-----------

キャッシュ・フロー計算書は、病院事業会計における純損益から、資産の増減を反映させ、減価償却費など、非資金項目を調整した「間接法」で作成し、実質資金収支（キャッシュ・フロー）を示したものである。

なお、本年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、20億3,147万2千円プラス、投資活動によるキャッシュ・フローは、1億9,745万6千円プラス、財務活動によるキャッシュ・フローは、8億5,602万1千円マイナスとなった。

以上により、資金期末残高は、93億5,140万円となった。

第7 参考資料

附表 1

最近3カ年の入院・外来 診療科別患者数、構成比及びすう勢比率

(単位：人、%)

区 分		入 院				外 来			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度 差・伸び率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度 差・伸び率
内 科	患者数	13,959	13,326	15,871	2,545	50,058	44,005	46,500	2,495
	構成比	10.7	9.7	11.2		18.6	16.1	16.6	
	すう勢比率	100.0	95.5	113.7	19.1	100.0	87.9	92.9	5.7
脳神経内科	患者数	7,028	7,846	7,620	△226	10,636	10,784	11,642	858
	構成比	5.4	5.7	5.4		3.9	3.9	4.2	
	すう勢比率	100.0	111.6	108.4	△2.9	100.0	101.4	109.5	8.0
呼吸器内科	患者数	15,219	16,202	12,573	△3,629	12,315	12,022	11,349	△673
	構成比	11.6	11.8	8.9		4.6	4.4	4.0	
	すう勢比率	100.0	106.5	82.6	△22.4	100.0	97.6	92.2	△5.6
消化器内科	患者数	9,872	9,331	8,862	△469	11,424	11,664	12,951	1,287
	構成比	7.5	6.8	6.3		4.2	4.3	4.6	
	すう勢比率	100.0	94.5	89.8	△5.0	100.0	102.1	113.4	11.0
循環器内科	患者数	16,451	16,362	18,314	1,952	17,591	16,976	14,922	△2,054
	構成比	12.6	11.9	13.0		6.5	6.2	5.3	
	すう勢比率	100.0	99.5	111.3	11.9	100.0	96.5	84.8	△12.1
外 科	患者数	11,451	12,074	14,589	2,515	17,902	17,846	18,866	1,020
	構成比	8.7	8.8	10.3		6.6	6.5	6.7	
	すう勢比率	100.0	105.4	127.4	20.8	100.0	99.7	105.4	5.7
小児外科	患者数	0	0	0	0	44	188	153	△35
	構成比	0	0	0		0.0	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	0	100.0	427.3	347.7	△18.6
呼吸器外科	患者数	0	0	0	0	224	252	228	△24
	構成比	0	0	0		0.1	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	0	100.0	112.5	101.8	△9.5
整形外科	患者数	15,263	18,081	21,243	3,162	20,505	18,518	20,380	1,862
	構成比	11.7	13.1	15.0		7.6	6.8	7.3	
	すう勢比率	100.0	118.5	139.2	17.5	100.0	90.3	99.4	10.1
リウマチ科	患者数	0	0	0	0	181	371	391	20
	構成比	0	0	0		0.1	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	0	100.0	205.0	216.0	5.4
脳神経外科	患者数	11,754	13,361	11,798	△1,563	5,567	5,071	4,657	△414
	構成比	9.0	9.7	8.3		2.1	1.9	1.7	
	すう勢比率	100.0	113.7	100.4	△11.7	100.0	91.1	83.7	△8.2
小 児 科	患者数	4,755	4,787	4,527	△260	14,790	16,000	15,627	△373
	構成比	3.6	3.5	3.2		5.5	5.8	5.6	
	すう勢比率	100.0	100.7	95.2	△5.4	100.0	108.2	105.7	△2.3
産婦人科	患者数	7,186	7,748	7,181	△567	15,535	15,977	14,855	△1,122
	構成比	5.5	5.6	5.1		5.8	5.8	5.3	
	すう勢比率	100.0	107.8	99.9	△7.3	100.0	102.8	95.6	△7.0
泌尿器科	患者数	5,911	5,964	6,263	299	11,196	11,100	12,315	1,215
	構成比	4.5	4.3	4.4		4.1	4.1	4.4	
	すう勢比率	100.0	100.9	106.0	5.0	100.0	99.1	110.0	10.9
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	患者数	2,266	2,744	2,474	△270	13,806	15,525	16,724	1,199
	構成比	1.7	2.0	1.8		5.1	5.7	6.0	
	すう勢比率	100.0	121.1	109.2	△9.8	100.0	112.5	121.1	7.7
眼 科	患者数	2,826	3,437	3,621	184	17,980	19,224	20,003	779
	構成比	2.2	2.5	2.6		6.7	7.0	7.1	
	すう勢比率	100.0	121.6	128.1	5.4	100.0	106.9	111.3	4.1
耳 鼻 いんこう科	患者数	4,523	3,624	3,578	△46	11,920	12,304	13,044	740
	構成比	3.5	2.6	2.5		4.4	4.5	4.7	
	すう勢比率	100.0	80.1	79.1	△1.3	100.0	103.2	109.4	6.0
放 射 線 診 断 科	患者数	23	18	10	△8	7,880	7,258	6,873	△385
	構成比	0.0	0.0	0.0		2.9	2.7	2.5	
	すう勢比率	100.0	78.3	43.5	△44.4	100.0	92.1	87.2	△5.3
麻 酔 科	患者数	0	21	0	△21	4,420	4,694	4,728	34
	構成比	0	0.0	0		1.6	1.7	1.7	
	すう勢比率	100.0	-	-	皆減	100.0	106.2	107.0	0.7
リハビリ テーシ ョン科	患者数	0	40	293	253	43	7,842	9,853	2,011
	構成比	0	0.0	0.2		0.0	2.9	3.5	
	すう勢比率	100.0	-	-	632.5	100.0	18,237.2	22,914.0	25.6
歯科口腔 外 科	患者数	1,721	1,814	1,957	143	12,359	12,582	12,704	122
	構成比	1.3	1.3	1.4		4.6	4.6	4.5	
	すう勢比率	100.0	105.4	113.7	7.9	100.0	101.8	102.8	1.0
精 神 科	患者数	0	0	0	0	62	0	2	2
	構成比	0	0	0		0.0	0	0.0	
	すう勢比率	100.0	-	-	0	100.0	-	3.2	皆増
救 急 科	患者数	708	770	533	△237	13,349	13,447	11,627	△1,820
	構成比	0.5	0.6	0.4		4.9	4.9	4.1	
	すう勢比率	100.0	108.8	75.3	△30.8	100.0	100.7	87.1	△13.5
計	患者数	130,916	137,550	141,307	3,757	269,787	273,650	280,394	6,744
	構成比	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	
	すう勢比率	100.0	105.1	107.9	2.7	100.0	101.4	103.9	2.5

(注) すう勢比率は、令和2年度を基準年度とした。

附表 2

最近3ヵ年の診療科別収入の構成比と患者1人当たり収入金額（消費税抜き）

区 分		診 療 取 入 (単位:千円、%)							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		対前年度	
		金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	比較増減	伸び率
内 科	入院	753,231		711,296		833,422		122,126	17.2
	外来	985,565		1,009,857		943,989		△65,869	△6.5
	計	1,738,796	12.8	1,721,154	11.5	1,777,411	11.7	56,257	3.3
脳神経内科	入院	387,499		454,718		456,882		2,164	0.5
	外来	194,008		255,058		297,869		42,811	16.8
	計	581,507	4.3	709,776	4.7	754,751	5.0	44,975	6.3
呼吸器内科	入院	857,928		972,063		717,430		△254,633	△26.2
	外来	377,580		433,671		345,717		△87,954	△20.3
	計	1,235,507	9.1	1,405,734	9.4	1,063,147	7.0	△342,587	△24.4
消化器内科	入院	543,778		529,925		537,362		7,437	1.4
	外来	306,906		365,515		426,681		61,166	16.7
	計	850,685	6.3	895,440	6.0	964,043	6.3	68,603	7.7
循環器内科	入院	1,746,692		1,776,463		1,716,157		△60,306	△3.4
	外来	258,392		267,270		233,418		△33,852	△12.7
	計	2,005,084	14.7	2,043,733	13.7	1,949,575	12.8	△94,158	△4.6
外 科	入院	936,412		1,008,250		1,174,066		165,817	16.4
	外来	455,552		465,242		546,789		81,548	17.5
	計	1,391,964	10.2	1,473,491	9.9	1,720,856	11.3	247,365	16.8
小児外科	入院	0		0		0		0	-
	外来	63		717		474		△243	△33.9
	計	63	0.0	717	0.0	474	0.0	△243	△33.9
呼吸器外科	入院	0		0		0		0	-
	外来	1,440		2,410		2,229		△181	△7.5
	計	1,440	0.0	2,410	0.0	2,229	0.0	△181	△7.5
整形外科	入院	1,152,457		1,341,543		1,494,536		152,994	11.4
	外来	141,117		151,518		167,148		15,630	10.3
	計	1,293,574	9.5	1,493,061	10.0	1,661,684	10.9	168,623	11.3
リウマチ科	入院	0		0		0		0	-
	外来	4,404		8,394		10,962		2,569	30.6
	計	4,404	0.0	8,394	0.1	10,962	0.1	2,569	30.6
脳神経外科	入院	868,169		988,464		934,670		△53,794	△5.4
	外来	66,614		76,768		58,907		△17,860	△23.3
	計	934,783	6.9	1,065,231	7.1	993,577	6.5	△71,654	△6.7
小 児 科	入院	334,531		325,069		298,040		△27,029	△8.3
	外来	161,138		168,486		171,957		3,471	2.1
	計	495,670	3.6	493,556	3.3	469,998	3.1	△23,558	△4.8
産婦人科	入院	560,614		632,660		645,182		12,522	2.0
	外来	116,689		139,887		133,365		△6,522	△4.7
	計	677,303	5.0	772,548	5.2	778,548	5.1	6,000	0.8
泌尿器科	入院	432,921		431,255		482,048		50,792	11.8
	外来	282,049		328,585		350,676		22,090	6.7
	計	714,970	5.3	759,841	5.1	832,723	5.5	72,883	9.6
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	入院	116,247		159,280		146,743		△12,537	△7.9
	外来	102,003		179,461		203,461		24,000	13.4
	計	218,249	1.6	338,741	2.3	350,204	2.3	11,462	3.4
眼 科	入院	259,774		336,983		406,046		69,063	20.5
	外来	167,002		216,719		203,448		△13,271	△6.1
	計	426,776	3.1	553,702	3.7	609,494	4.0	55,792	10.1
耳 鼻 いんこう科	入院	249,303		196,479		229,287		32,808	16.7
	外来	89,572		99,557		128,574		29,016	29.1
	計	338,874	2.5	296,036	2.0	357,860	2.4	61,824	20.9
放 射 線 診 断 科	入院	3,354		3,531		2,015		△1,516	△42.9
	外来	156,838		185,060		193,371		8,311	4.5
	計	160,193	1.2	188,591	1.3	195,386	1.3	6,795	3.6
麻 酔 科	入院	0		1,077		△2		△1,079	△100.2
	外来	8,156		10,031		9,030		△1,001	△10.0
	計	8,156	0.1	11,108	0.1	9,028	0.1	△2,079	△18.7
リハビリ テーシ ョン科	入院	0		4,237		15,715		11,478	270.9
	外来	538		50,687		72,828		22,141	43.7
	計	538	0.0	54,924	0.4	88,543	0.6	33,619	61.2
歯科口腔 外 科	入院	127,083		137,643		141,302		3,659	2.7
	外来	83,140		88,756		91,521		2,765	3.1
	計	210,224	1.5	226,399	1.5	232,823	1.5	6,424	2.8
精 神 科	入院	0		0		0		0	-
	外来	0		0		9		9	皆増
	計	0	0	0	0	9	0.0	9	皆増
救 急 科	入院	94,500		132,000		72,505		△59,495	△45.1
	外来	225,647		306,449		294,626		△11,823	△3.9
	計	320,147	2.4	438,448	2.9	367,131	2.4	△71,317	△16.3
計	入院	9,424,493	69.3	10,142,937	67.8	10,303,406	67.8	160,469	1.6
	外来	4,184,413	30.7	4,810,099	32.2	4,887,051	32.2	76,952	1.6
	計	13,608,905	100.0	14,953,036	100.0	15,190,457	100.0	237,421	1.6

区 分		患者1人当たり収入（単位：円、%）				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度	
					比較増減	伸び率
内 科	入院	53,960	53,377	52,512	△865	△1.6
	外来	19,688	22,949	20,301	△2,648	△11.5
	計	27,161	30,021	28,497	△1,524	△5.1
脳神経内科	入院	55,136	57,955	59,958	2,003	3.5
	外来	18,241	23,652	25,586	1,934	8.2
	計	32,920	38,099	39,183	1,084	2.8
呼吸器内科	入院	56,372	59,997	57,061	△2,936	△4.9
	外来	30,660	36,073	30,462	△5,611	△15.6
	計	44,872	49,806	44,442	△5,364	△10.8
消化器内科	入院	55,083	56,792	60,637	3,845	6.8
	外来	26,865	31,337	32,946	1,609	5.1
	計	39,946	42,650	44,196	1,546	3.6
循環器内科	入院	106,175	108,573	93,707	△14,866	△13.7
	外来	14,689	15,744	15,643	△101	△0.6
	計	58,900	61,303	58,659	△2,644	△4.3
外 科	入院	81,776	83,506	80,476	△3,030	△3.6
	外来	25,447	26,070	28,983	2,913	11.2
	計	47,422	49,248	51,438	2,190	4.4
小児外科	入院	0	0	0	0	-
	外来	1,440	3,814	3,098	△716	△18.8
	計	1,440	3,814	3,098	△716	△18.8
呼吸器外科	入院	0	0	0	0	-
	外来	6,428	9,565	9,778	213	2.2
	計	6,428	9,565	9,778	213	2.2
整形外科	入院	75,507	74,196	70,354	△3,842	△5.2
	外来	6,882	8,182	8,202	20	0.2
	計	36,166	40,795	39,922	△873	△2.1
リウマチ科	入院	0	0	0	0	-
	外来	24,331	22,625	28,037	5,412	23.9
	計	24,331	22,625	28,037	5,412	23.9
脳神経外科	入院	73,862	73,981	79,223	5,242	7.1
	外来	11,966	15,139	12,649	△2,490	△16.4
	計	53,968	57,793	60,381	2,588	4.5
小 児 科	入院	70,354	67,907	65,836	△2,071	△3.1
	外来	10,895	10,530	11,004	474	4.5
	計	25,360	23,743	23,320	△423	△1.8
産婦人科	入院	78,015	81,655	89,846	8,191	10.0
	外来	7,511	8,756	8,978	222	2.5
	計	29,810	32,563	35,331	2,768	8.5
泌尿器科	入院	73,240	72,310	76,968	4,658	6.4
	外来	25,192	29,602	28,475	△1,127	△3.8
	計	41,794	44,529	44,823	294	0.7
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	入院	51,300	58,047	59,314	1,267	2.2
	外来	7,388	11,559	12,166	607	5.3
	計	13,579	18,542	18,242	△300	△1.6
眼 科	入院	91,923	98,046	112,136	14,090	14.4
	外来	9,288	11,273	10,171	△1,102	△9.8
	計	20,512	24,434	25,800	1,366	5.6
耳 鼻 いんこう科	入院	55,119	54,216	64,082	9,866	18.2
	外来	7,514	8,091	9,857	1,766	21.8
	計	20,609	18,586	21,529	2,943	15.8
放 射 線 診 断 科	入院	145,836	196,185	201,521	5,336	2.7
	外来	19,903	25,497	28,135	2,638	10.3
	計	20,270	25,920	28,387	2,467	9.5
麻 酔 科	入院	0	51,269	0	△51,269	皆減
	外来	1,845	2,137	1,910	△227	△10.6
	計	1,845	2,356	1,910	△446	△18.9
リハビリ テーシ ョン 科	入院	0	105,928	53,635	△52,293	△49.4
	外来	12,502	6,463	7,391	928	14.4
	計	12,502	6,968	8,727	1,759	25.2
歯科口腔 外 科	入院	73,843	75,878	72,203	△3,675	△4.8
	外来	6,727	7,054	7,204	150	2.1
	計	14,931	15,727	15,880	153	1.0
精 神 科	入院	0	0	0	0	-
	外来	0	0	4,250	4,250	皆増
	計	0	0	4,250	4,250	皆増
救 急 科	入院	133,474	171,428	136,032	△35,396	△20.6
	外来	16,904	22,789	25,340	2,551	11.2
	計	22,775	30,840	30,192	△648	△2.1
計	入院	71,989	73,740	72,915	△825	△1.1
	外来	15,510	17,578	17,429	△149	△0.8
	計	33,963	36,364	36,022	△342	△0.9

(注) 計は、入院及び外来収益を年延患者数で除したものである。

附表 3
財務分析表

分析項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	算式	説明
固定資産構成率	%	68.8	55.4	50.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	固定資産と資産総額との割合を表すもので、この比率の高いことは公営企業の特徴であるが、低いほうが望ましい。
固定負債構成率	%	76.4	63.3	59.8	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	固定負債と総資本との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
自己資本構成率	%	4.8	21.2	24.8	$\frac{\text{資本金+剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	自己資本と総資本の割合を表すもので、この比率の高いほうが望ましい。
固定資産対長期資本比率	%	86.1	55.0	48.7	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+固定負債}} \times 100$	固定資産と長期資本（資本金と固定負債との合計）との割合で、資本固定化の程度を表すものであって100%以下であることが望ましい。
固定比率	%	1,437.7	260.6	204.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金}} \times 100$	固定資産と自己資本との割合で、資本固定化の程度を表すものであって、100%以下であることが望ましい。
流動比率	%	205.6	372.1	431.0	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	流動資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、200%以上であることが望ましい。
当座比率	%	196.6	361.7	419.5	$\frac{\text{現金預金+未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	当座資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、100%以上であることが望ましい。
現金預金比率	%	90.5	263.8	315.8	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	現金・預金と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、20%以上であることが望ましい。
自己資本回転率	回	35.6	5.0	2.8	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首資本金、剰余金} + \text{期末資本金、剰余金}) \div 2}$	自己資本の利用度を表すもので、原則として回転率の高いことが必要である。
固定資産回転率	回	1.0	1.1	1.2	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2}$	固定資産の利用度を表すもので、収益性の観点からは回転率の高いほうがよいが、健全性の上からいえば回転率の高いのはあまりよくない。
減価償却率	%	9.1	9.7	10.2	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	固定資産の償却率を表すものである。
流動資産回転率	回	2.6	1.8	1.4	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \div 2}$	流動資産の使用、利用度を表すものである。
未収金回転率	回	6.3	6.8	6.5	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首医業未収金} + \text{期末医業未収金}) \div 2}$	未収金の回収度（回収率）を表すもので、高いほど回転が早く、未収金が未回収のまま残留する期間が短いことを意味する。
総資本利益率	%	5.8	18.3	4.2	$\frac{\text{当年度純利益}}{(\text{期首負債資本} + \text{期末負債資本}) \div 2} \times 100$	当期の純利益（純損失）と総資本との割合で、企業全体（総資本）の収益性を表すものである。
総収益対総費用比率	%	107.0	123.6	105.5	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	当期の総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
医業収益対医業費用比率	%	88.4	92.6	89.6	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益と医業費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
修正医業収支比率	%	86.7	90.7	87.5	$\frac{\text{医業収益} - \text{他会計負担金}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益から他会計負担金を除いた額と医業費用との割合で、営業活動の実質的な収益率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
利子負担率	%	1.4	1.4	1.4	$\frac{\text{支払利息}}{(\text{期首企業債、一時借入金} + \text{期末企業債、一時借入金}) \div 2} \times 100$	支払利息と負債との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
企業債償還元金対減価償却額比率	%	94.2	90.2	83.9	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{減価償却費}} \times 100$	企業債償還元金とその償還財源に充当すべき減価償却費との割合を表すもので、この比率の低いことが望ましい。